

認知症になっても 暮らしやすいまちを みんなで作ろう

「寄せ植え体験教室 オレンジいっぱいプロジェクト in大阪狭山」



\ interview /

認知症になっても暮らし
やすい環境にしたいですね



まちづくり研究会/
伊藤さん

オレンジいっぱいプロジェクト
について聞きました

認知症のシンボルカラーであるオレンジ色の花を育てることをきっかけに認知症への理解を深め、温かい地域のつながりを広げていく活動です。私たちの活動は、花を育てることだけが目的ではありません。花でなくても地域の皆さんが生活の中で、オレンジ色と出会うことで、少しでも認知症のことを思い出してもらい、まちで困っている人がいれば、声をかけるような温かい地域になってほしいと考えています。

「オレンジいっぱいプロジェクト」は
どんな活動ですか

介護職として働く中で、軽度認知症の症状がある人が、地域の理解が得られず、地域での暮らしが難しくなっていく姿を目の当たりにしました。その人は、施設に入所したことで、人とのつながりが少なくなり、症状が進行していききました。地域に認知症への理解があれば、違う未来があったのでは」と、痛感したことをきっかけに、認知症への理解を広げ、地域で見守り支え合えるまちにしたいという思いで、まちをオレンジ色でいっぱいにする活動を始めました。

「活動のきっかけは

認知症のこと

知っていますか？

9月はアルツハイマー月間です

認知症になったら何もわからなくなるというイメージを持っていますか。現在は認知症になっても、社会で活躍し希望を持って自分らしく暮らしている人が増え、認知症に対するイメージも変わりつつあります。どうしても認知症になっても安心して希望を持って暮らすことができるのか、正しく理解して受け止めることから始めてみませんか。

問い合わせ 高齢者福祉グループ ☎360-40085

「認知症」とは

認知症は、様々な原因で脳の機能が低下し、日常生活に支障が出る状態で、通常の老化による衰えとは異なります。たとえば、「朝ごはんは何を食べたか思い出せない」といった体験の一部を忘れるのは老化による物忘れといえますが、「朝ごはんを食べたこと自体を忘れてしまう」場合は、認知症が疑われます。

認知症は早期発見が大切です。完治が難しい病気ですが、適切に対処し周囲がサポートすれば、充実した暮らしを続けることができます。気になることがあれば、早めに受診し、検査を受けましょう。

市では、認知症に関する様々な事業に取り組んでいます。また、市役所・ロビー、図書館、さやま荘で認知症に関する展示やリーフレットの配架を行います。



出張 さやりんおれんじカフェ・ 認知症なんでも相談会

3つのカフェが集合します。地域包括支援センターの認知症地域支援推進員などに相談できます。

とき 9月18日(金)午後2時～4時 ところ さやま荘・大広間

問い合わせ 地域包括支援センター ☎368-9922

さやりんおれんじカフェ

認知症の人や家族、地域の人などが気軽に集まり、仲間づくりや情報交換をする場です。市内に3か所あり、カフェはいずれも100円で利用することができます。オレンジ色ののぼりを目印にお越しください。

さくらあつたかカフェ ☎288-4381

とき 9月13日(日)午後2時～4時 ところ さくらの杜・半田(半田三丁目)

くみのきカフェ ☎368-2772

とき 9月27日(日)午後2時～3時30分 ところ 特別養護老人ホームくみのき苑(東茱萸木四丁目)

里カフェ ☎365-5878

とき 9月10日(木)・24日(木)午後2時～4時 ところ 介護老人保健施設さやまの里(岩室二丁目)

問い合わせ 地域包括支援センター ☎368-9922

健康はつつあおばカフェ

認知症や健康について医療専門スタッフと話せます。

とき 9月18日(金)午前10時～午後0時 ところ 青葉丘病院(東池尻一丁目)

問い合わせ 青葉丘病院 ☎365-3821

知っていますか？成年後見制度

認知症や知的障がい・精神障がいなどにより判断能力が十分でない人が安心して生活を送ることができるよう、本人の権利を守る擁護者(成年後見人など)を選び、法的に支援する制度です。

次のような心配ごとや困りごとがある場合、「大阪狭山市権利擁護支援センター」で相談できます。

●内容がわからず、契約や手続きができない ●認知症になったら将来が不安 ●お金のやりくりができない ●身寄りがいない ●通帳や印鑑をよくなくす ●障がいを持つ子の将来が不安

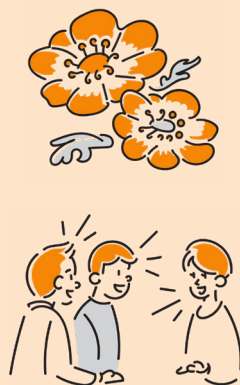
問い合わせ 権利擁護支援センター ☎368-2111

✓今後の目標は

認知症になると、家族も含めて周囲の人に隠したくなり、外出する機会が少なくなったり、施設に入所することで、地域社会とのつながりが少なくなったりします。地域で暮らし続けることでだれかと話したり、何かを考えたりすることが多くなり、症状の進行を遅らせることにもつながります。大阪狭山市を認知症になっても自分の役割を持って、自分らしく暮らすことができれば、まわしにいてくれる人に、これからも活動を続けていきたいです。

✓私たちにできることは

子どもも大人も、日ごろのあいさつやちょっとした声掛けなど、自分ができることをしてほしいです。活動はだれでも参加できます。皆さんも地域のことや隣に住んでいる人のことを少しでも気にかけて、見守ってもらえたらうれしいです。



認知症についてもっと知ろう

9月18日(金)午後1時～3時

@さつき荘・スポーツ室

【①大阪狭山市介護者家族の会「たまゆら」認知症講座～認知症の本当のこと知っていますか？～】

講師 浅野安希子さん／大阪狭山市介護者家族の会「たまゆら」会長

【②寄せ植え体験教室～大阪狭山市に咲かせよう、心と心のオレンジの花～】



対象 ①に参加できる人 参加費 100円(材料費) 定員 15人(先着順)

申し込み ②のみ9月16日(水)までに地域包括支援センターへ電話または直接。①のみの参加も可

問い合わせ 地域包括支援センター ☎368-9922